

— こ数年、歯科医療関係の書籍やセミナーの案内、そしてSNSなどで「**ダイレクトボンディング**」という言葉をよく目にするようになってきました。このことは、いわゆる**直接コンポジットレジン**（以降、本書では**コンポジットレジン**をCRと表記）修復について急速に関心が寄せられていることの証だと思えます。CRやボンディング材、関連器材なども年々進歩し、術式も確立されてきたことで、さまざまなエビデンスも揃いつつあります。そして何よりも、世界中で多くの方々から求められる治療法となってきました。

また、30年を少し超える臨床経験を経て、私自身が常々感じているのは、修復治療を受けた歯でも健全歯質（とくにエナメル質）が多く残されているほど、長期にわたって安定し、抜歯へと至る確率があきらかに低いということです。もしも歯科医療従事者たちが、自らが患者としてう蝕治療を受けなければならない場合、低侵襲で審美性と機能性を兼ね備え、予知性も向上している**直接CR修復**を、当然のように第一選択として希望されていることでしょう。

そのような折、あるセミナーの懇親会で、修復治療で可及的にエナメル質を残すことがいかに価値あることなのかを力説したことがきっかけで、その場にいた宮地秀彦先生と「**エナメル質残そう委員会 (SAVE THE ENAMEL!!)**」を結成し、歯科界にムーブメントを巻き起こそうと意気投合しました。そして、かたや大阪の下町で一般臨床を行う普通のGPである私と、かたや大学の保存修復科での経験あるスペシャリストとの（オマケに年齢も10歳以上差がある）コンビによって、月刊デンタルダイヤモンドで連載し、このたび書籍化となりました。

直接CR修復をしっかりと勉強したい方はもちろん、年齢やキャリアなどに関係なく、本書をご覧になって「**SAVE THE ENAMEL!!**」という臨床スタイルに興味をもっていただければ幸いです。

脇
宗
弘

